

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立121年周年を迎える歴史を有する本校の役割は、生徒・保護者・地域・社会のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為で未来を拓く人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール (GLHS)」と「スーパーサイエンスハイスクール (SSH)」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。

- 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒
○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒
- 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力・グローバルリーダーの育成

次期学習指導要領を見据え、教育課程を軸にした「カリキュラムマネジメント」を行うことで、高い志と確かな学力を併せ持ち、チャレンジ精神に富む、豊かな未来社会を拓く『グローバルリーダー』を育成する。(1)(2)の取組で、グローバルリーダーとしてのコンピテンシー（資質・能力）：英語運用力や未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」、チャレンジ精神を育成する。

(1) 生徒の持つ力を最大限に引き出す

- ア いわゆるアクティブラーニングの視点での授業「主体的・対話的で深い学びの授業」に取り組み、多面的・多角的学習評価を行うことで、未来型の確かな学力の育成をめざす
- イ 授業目標や学ぶ意義を「岸高スタンダード」として各教科で共有し、授業公開週間や教員研修等で、教科横断した学校組織としての授業改善に取り組む
- ウ 「土曜の午前は学習タイム」を徹底し、生徒が主体的に学ぶ
- エ 「岸高スーパークラス」設置による切磋琢磨で生徒の持つ力を最大限に引き出す
※生徒向け授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目9「知識や技能が身についた」H28 学校平均(3.06/4点満点)を3年後に、3.15以上にする
※すべての教科科目で、観点別学習状況の評価を導入し、教科特性に合わせてルーブリック評価やCan-doリストなど学習の明確な指標を示す

(2) グローバルリーダーズハイスクール (GLHS)・スーパーサイエンスハイスクール (SSH)としての学力向上や高い志に係る内容の充実を図る。

- ア 英語運用力の向上。TOEFL仕様の授業の導入等により、英語4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく身につけさせる
- イ グローバルリーダー養成プログラム等の外部連携の取組を活用し、海外大学生や高校生とのディスカッション・プレゼンテーションを推進する
- ウ 地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化、普及する
- エ 課題研究の手法を一般教科に広め(AL型)、ICT機器の活用も図る
※TOEFL iBT チャレンジテストのスコアを3年後、ステージ2(対象人数の10%以上が80点以上、20%以上が60~79点)をめざす

(3) 「朝読」(読書活動)をカリキュラムマネジメントする

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、進学実績のみを求めるのではなく、生徒が主体的に考え、それぞれのキャリア(将来像)の実現を図れるよう、学びに向かう力・人間性を涵養する。ALL文理学科への改編で、第1志望を貫き「入りたい大学」合格をめざす! 機運の醸成をめざす。

(1) GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施する

- ア 興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う(生徒のハートに火をつける体験)
- イ 場の力を活用して主体的に学びに向かう力を育み、モチベーションを喚起する
- ウ 全員が課題研究に取り組む体制を構築する

(2) 国公立大学志望90%以上という生徒の進路希望の実現をサポートし、海外の大学への進学にも対応する

- ア 低学年(1年2年)での学習習慣、時間管理能力を確立する(岸高手帳の活用)
- イ 進路指導部が主導する進路指導ホームルーム計画や進路指導の取組をさらに充実する
※国公立大学進学者の合格者数を3年後に60%以上、あわせて難関大学(東大・京大・阪大・神大・旧帝大など)の受験者増をめざす
※(生徒向け)学校教育自己診断における進路指導の満足度80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす
※海外大学進学者1名以上をめざす

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

主体的に参加する学校行事・部活動等の充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから一層の充実を図る。また、グローバルで幅広い視野や互いを尊重するところ、コミュニケーション力を持ち、多様な人々と協働して自ら未来を拓けるよう、豊かな感性や体力や健康を育む。

(1) 学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める

- ア 学校生活の主体的な取組みを充実する
- イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する
- ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する

(2) メンタルサポート体制を充実させる

教育相談室(教育相談&支援教育)を充実し、支援の必要な生徒に合理的に配慮する

(3) 多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する

- ※(生徒向け)学校教育自己診断における学校行事やクラブ活動の満足度90%以上とクラブ活動参加率90%以上を維持する
- ※(生徒向け)学校教育自己診断における国際(理解)教育の満足度80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす

4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献

SSHの成果・GLHSの活動等や学校情報を地域や保護者に積極的に情報発信する。危機管理やワークライフバランスの視点を持ち、地域協働による学びを通して、社会参加・社会貢献の意識を醸成する。生徒と教職員がより安全で安心に学べる学習環境の構築をめざす。

- (1) 学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する
- (2) 地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む
- (3) 生徒と教職員が安全で安心な学習環境を充実する

※(保護者向け)学校教育自己診断における情報提供の満足度90%以上を維持する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成・グローバルリーダーの育成	(1) 生徒の持てる力を最大限引き出す	ア ・アクティブラーニング (AL) の視点での授業や ICT 機器の授業活用した授業に全授業担当者が取り組み、CAN-DO リストや観点別評価を導入し、多面的・多角的な評価に努める。(継続)	ア 生徒による授業評価における項目 8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目 9「知識や技能が身についた」の学校平均が (4 点満点) 3.10 以上 (H29 は 3.08)	
	ア 「主体的・対話的で深い学びの授業」と学習評価	イ ・「岸高学びのスタイル」を作成し教科目標を担当者が共有し、生徒の進路実現を図る。 ・教科別に公開授業週間を設定し、互いの授業見学し授業力向上に努める。また、全教科で研究授業を行い、研究協議の時間を持つ。(継続)	イ 学校教育自己診断における「授業力向上のための取組み」の項目の肯定的回答 80%以上を維持する (H29 は 92.5%)	
	イ 授業目標の共有、授業公開週間	ウ ・「千亀利セミナー」(土曜の自学自習) 体験の実施 ・「岸高スーパー土曜講習」の導入	ウ ・4月に1年全員に実施する ・1学期に募集選考し、9月に開始する	
	ウ 「土曜の午前は、学習タイム」の徹底	エ ・「岸高スーパークラス」(文系スーパー) (理系スーパー) の円滑導入	エ 11月に選考する	
	エ 「岸高スーパークラス」	(2) ア ・新大学入試(英語外部試験)への対応と4技能の生徒の伸長を測定のために GTEC の全員受検を円滑導入する(希望者には、英検・TOEFL も)	(2) 1、2年を対象に12月に実施する	
	(2) GLHS・SSH としての学力向上や高い志	イ ・新規事業のドイツ相互交流の目的の明確化を図り、岸高独自の GLP (グローバルリーダー養成プログラム) の1つとなるよう努める ・【グローバルリーダー養成基礎】生徒全員が姉妹校(台湾)とリンガフランカ交流で、多様性を理解し協働や英語運用力の重要性を体得する。 ・【グローバルリーダー養成プログラム(校内版)】留学生招聘実施 【グローバルリーダー養成プログラム(海外大学版)】カリフォルニア大学バークレー校実施。グローバルな視野でキャリア(将来像)を考え、英語運用力やチャレンジ精神、コミュニケーション力、プレゼンテーション力等を鍛える	イ 3月の訪独の際の生徒レポートのまとめを作成し、7月の訪日を円滑に行う 参加満足度 90%以上を維持する	
	ア 英語運用力向上	ウ ・SSH鳥類海外フィールドワーク(台湾)実施 ・課題研究の基礎についての講演会を導入 ・3年生論文集を作成する	ウ ・夏季休業中に実施する ・1年生全員に実施する ・文理学科理科の生徒全員に実施する	
	イ 外部連携の取組とリンガ・フランカ交流	エ ・大学教授による「思考力・判断力・表現力」を育む「主体的で対話的な深い学び」をめざす実践的な授業研究の教員研修を年2回行う	エ、学校教育自己診断で学校は研修などで指導法の改善に努めている 肯定的意見 80%以上	
	ウ SSHやGLHSの活動の深化普及	(3) ・校長通信「岸高手帳&朝読のススメ」の作成と生徒への配布 ・朝読が「読解力」「論理的思考」「分析力」の育成や「小論文」指導等に繋がる教員各自の教科指導やHR指導の工夫を「自立・自己実現の支援」の目標に設定する	(3) ・4月の始業式に配布する ・教職員全員が取り組む	
	エ AL型授業・ICT活用 「思考力・判断力・表現力」育成のための教員研修			

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 高い志をばぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1)GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施する</p> <p>ア 体験的キャリア教育の体系化</p> <p>イ 場の力を活用</p> <p>ウ 課題研究の体制</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の岸和田高校のキャリア教育の流れをポンチ絵等にまとめ、各取組の関連性や目標を見える化する ・卒業生による職業講話や、大学教授等の出前講義、SSH講演会などの機会をできるだけ多く提供し、将来について考えさせる（継続） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大・京大・阪大等のキャンパスツアーを実施する（継続） ・国内、海外の研究室の見学、サイエンスツアーなどを奨励する（継続） <p>ウ</p> <p>ALL文理への移行ワーキングチームで引き続き、H31年度の2年次（全員320名）体制での課題研究実施に向けた校内体制を構築する</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬までに、提示する ・学校教育自己診断の講演会等の質問項目の肯定的な生徒回答が80%以上維持（H29は85.9%） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の特色のある教育活動等の質問項目の肯定的な保護者回答が80%以上維持（H29は92.8%） <p>ウ</p> <p>30年度内に整える</p>	
	<p>(2) 国公立大学志望90%の進路実現</p> <p>ア 学習習慣、時間管理能力の確立 (岸高手帳の活用)</p> <p>イ 進路指導ホームルーム計画充実</p>	<p>(2)</p> <p>第1志望の「入りたい大学」をめざし、国公立大学に、合格できるよう生徒が学習できるように、学校として支援する（継続）</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から、主体的な学習習慣を確立し、学習時間の確保により、学力を向上し、高い志での進路実現ができる生徒集団を育成する（継続） ・ALL文理学科での岸高の進路指導体制の骨格の明確化を図る（新大学入試を見越して） ・「岸高手帳」の導入により時間管理能力を育成する（継続） <p>岸高手帳の記入欄の見直しを行い、高校での活動を記録しやすくし、ポートフォリオ機能を充実させ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間の効果的な講習を（外部講師の活用も含む）提供する（継続） ・3年ゼロ学期（2年12月）を徹底し、受験生宣言やPT（東大・京大・医学部の希望者集団への個別指導）を行う（継続） ・3年生対象集中勉強会を実施する（継続） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見越した進路ホームルームを実施する（継続） ・模試等分析会に担任だけでなく、副担も参加し、分析会直後に情報の共有し、教科や学年の課題を確認し今後の対応を考える ・進路通信（生徒向け）を発行し、校長ブログやメール配信サービスで、配布したことを保護者にも周知する ・進路実現プロジェクト（3年12月上旬）受験生応援プロジェクト（12/31）の実施により、センターテスト・2次試験への取組意欲の喚起と頑張りぬく精神力を育む（継続） ・生徒、保護者への進学説明会の充実と海外大学進学説明を実施する（継続） 	<p>(2)</p> <p>アイの取組の結果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数が（現浪合わせて）160人以上（H29は未定人） ・（保護者向け）学校教育自己診断結果における進路情報の満足度85%以上を維持（H29は86.4%） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試等の結果を振り返る進路HRをH30年4月から、計画的に設定する <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外大学進学説明会を1回以上実施する 	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) 学習とクラブ活動・学校行事の両立</p> <p>ア 学校生活の充実</p> <p>イ クラブ活動の奨励 クラブ活動を核にしたリーダー育成</p> <p>ウ 社会人としての人権意識・マナーの醸成</p> <p>(2) メンタルサポート体制を充実させる</p> <p>ア 教育相談室の(教育相談&支援教育)充実</p> <p>イ 支援の必要な様々な状況を持つ生徒への合理的配慮</p> <p>(3) 多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足・文化祭・体育祭・鍛練遠足・合唱コンクール等行事への生徒の主体的な取組を支援する(継続) ・岸校グッツにより自己肯定感を高める(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動への入部を奨励する(継続) ・クラブ活動振興のため社会人講師の活用する(継続) ・外部講師を招聘したメンタルトレーニングや理学療法的な講演会をクラブ部員中心に実施し、健康を自己管理する能力を高め、高い志の下、活動において良い結果を出せるよう取り組む(継続) ・学習とクラブ活動両立の良い事例の共有やリーダー性を高めるためのリーダー研修をクラブ代表者を対象に実施する(継続) <p>ウ・地域貢献や主権者としての社会参加意識、人権意識の涵養と生活マナーの向上(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止やネチケツト、LGBT等、人権教育の推進のための教職員や生徒への研修の実施する(継続) ・朝の挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻を実施 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室(教育相談&支援教育)の円滑な運営を行う(継続) ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる(継続) ・教育相談室が、教職員の意識・スキル向上のための研修の計画およびその実施する(継続) ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う(継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況の生徒の教育的ニーズに応じて、適切な支援する(継続) ・必要に応じて福祉や医療など外部機関と連携(継続) ・キャリア教育(大学卒業後の就労支援に向けた配慮など)を検討する <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外視察校の受け入れる(継続) ・姉妹校や新たなドイツとの相互交流を深化する ・ドイツとの交流をはじめ、GLP(校内版)等でのホームステイ受け入れ家庭を推進し、生徒や保護者の異文化理解を進める。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事アンケートの満足度の把握し、満足度80%以上維持(H29は、84.4%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動入部率90%以上を維持 ・講演会参加者数200名以上を維持する ・リーダー研修を1回以上 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総遅刻数を2,000回以下を維持。 ・社会科を中心に計画的に主権者教育実施 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室会議を各学期に2回定例会議を持ち、その他随時に対応。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談日より「オアシス」の年間5回以上の発行およびその内容の充実 ・年間1回以上の研修 ・スクールカウンセラーとの情報交換会の学期1回実施 <p>イ. 相談室会議において、教育的ニーズのある生徒への支援に知恵を講じる。必要な生徒を把握することに行う。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの訪問校を3校以上招致 ・ホームステイ受入家庭を10家族以上 	
---	--	--	--	--

<p style="text-align: center;">4 地域・保護者との連携と環境整備</p>	<p>(1) 情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。</p> <p>(2) 地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む</p> <p>(3) 生徒と教職員の安全安心な学習環境</p>	<p>(1) 情報発信</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校 Web ページの「岸高アーカイブ」(科目・部活動の課題研究成果)「SSH ブログ」「教育コレクション」「校長ブログ」などを通して本校の教育活動の広報を推進する (継続) 文化祭や体育祭、生徒研究発表会の保護者や地域に公開する (継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 Web ページの改善し中学生に魅力あるものにする 校長ブログやメーリングリストにより情報発信する (ブログ平日は更新。メール週末発信) (継続) 「岸高レター」保護者や中学校対象に発行する年 2 回以上 (継続) 特徴のある授業や取組のショート動画を本校 Web ページで紹介する <p>(2) 社会貢献について考えさせる GLHS 講演会の実施する</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園との計画的なサービスラーニングを実施する (継続) 近隣の幼稚園との 1 年を通じた交流する (継続) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭の内容の精選と地域中学生へ招致の工夫 近隣の幼稚園との防災教育・共同避難訓練を行い、近隣の住民との防災教育を通じた意見交流を行う (継続) 公開食育講座を実施する (継続) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波や地震の避難経路や場所の見直しと新しい避難訓練の導入など、防災意識の強化する ノークラブディの励行と全庁退庁日の徹底 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> (保護者向) 学校教育自己診断結果における情報共有満足度 85%以上維持 (H29 は、86.2%) (保護者向) 学校教育自己診断結果における「国際交流 SSH などの特色ある教育活動」80%以上 (H29 は、85.9%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 Web ページの改善を 1 学期中に開始する この 4 年間の発信数を維持する <p>(2) 講演会を 1 回以上 実施</p> <p>ア・地域の幼稚園との交流を各学期ごとに 1 回、年 3 回以上実施</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸高桜祭の来校者 200 人以上を維持 近隣幼稚園との防災教育、共同避難訓練を 2 回以上 近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年 3 回以上実施 <p>(3) 新しい避難の方法の導入を 1 年生から学年進行で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時、呼びかけを続けていく <p>時間外勤務の月平均時間の年間 (4 月～2 月) 平均の時数の 10%削減</p>	
--	---	--	--	--